

事例 4

コーディネーター名	関口 浩子	活動学校	栃木市立皆川城東小学校 栃木市立皆川中学校
コーディネーター歴	5年目	経 歴	元保護者 (元皆川城東小学校 PTA 本部役員)

1 コーディネーターを始めるきっかけ

栃木市が平成 24 年度から、学校・家庭・地域の連携・協力を組織的に発展させ、より効果的に学校支援や地域の絆づくり等を図る教育システムとして「とちぎ未来アシストネット」を導入したのを機に、コーディネーターとして活動することになった。

2 コーディネート活動の概要

皆川地区には 3 名のコーディネーターが活動しているが、自分は、皆川城東小学校と併せて 2 校に携わっている。また、皆川地区で約 60 名のボランティアの方々が、アシストネットに登録し活動している。皆川地区アシストネットの具体的な活動内容は次のとおりである。

- PTA総会におけるアシストネット説明会・・・アシストネットを知らない保護者が多いため、毎年実施。
- 読み聞かせ・・・3 年目の活動で、年 3 回実施している。
- ディスプレイ・・・玄関への生け花の展示、校内掲示板の装飾、未使用だったショーケースを活用した地域の方々の作品展示
- 特別支援学級振興会補助・・・作品作りの手伝い
- ふるさと学習・・・地域の歴史講話(皆川歴史部の方々に依頼)
- 学校祭班別発表の指導・・・「日本文化を」という学校からの要望に応え、今年度から実施。(太鼓、箏・よさこい)
- キャリア教育講座講師紹介・・・様々な職業の方による講話

その他、持久走大会伴奏者協力、授業アシスト(剣道)、部活動指導、賞状の浄書、制服バンクの設置等を行っている。



校内掲示板の装飾と地域の方々の作品展示の様子

3 コーディネート活動がうまくいくためのポイント

① 学校からの支援

- 年間スケジュールの作成
毎年実施するような活動については、学校側で年度初めに年間スケジュールを作成してくれる。
- 情報発信
アシストネットの関わった活動について、学校だよりやホームページを通じて紹介してくれる。

② 工夫していること

- 先生とのコミュニケーション
 - ・学校側からの連絡はまずFAXで行い、その後必要に応じて電話やメールで連絡し合う。
 - ・用事がなくてもこまめに学校へ足を運び、顔を出すようにしている。
 - ・打合せは職員室内中央で行う。たくさんの先生がいるところで行うことで、打ち合わせている先生以外の

先生も話に加わったり、気軽に相談したりしやすい雰囲気ができている。

■ ボランティアの声を把握する

- ・実際の各活動にコーディネーターも顔を出し、ボランティアと一緒に参加・協力するようにしている。
- ・活動をよりよくするために、ボランティアには実施後に活動日誌を書いてもらっている。よかった点や改善点などを含め、どんなことでも記載してもらおうようにしている。日誌はファイリングし、次年度以降に生かしている。
- ・ボランティアから学校・先生へ、また学校・先生からボランティアに直接言いにくいことは、コーディネーターを通して話してくださいと声をかけている。

■ ボランティアの確保

一番苦労したのは、ボランティアを探すこと。初めは地域で説明会を行って募集をかけた。その後はボランティアが自分の知り合いを紹介してくれて、どんどん広がっていった。

■ 保護者への周知

アシストネットの保護者への周知については、年度初めに説明会を実施している。また、PTA本部役員を兼務しているコーディネーターを頼りにしている。

■ 後継者への引継ぎ

後継者への引継ぎを見越して、3名のコーディネーターの年齢を50代、40代、30代で構成している。

■ 負担にならないように大切にしていること

- ・若いコーディネーター(子どもが小さい方)は特に大変だと思うので、子育てを終えた年代がコーディネーターの総括役を務め、若い方をサポートできるようにしている。
- ・コーディネーターの負担軽減のため、3名で仕事を分担して行っている。また、読み聞かせのような常時の活動については、その活動のリーダーに任せるようにしている。
- ・ボランティアの活動が負担にならないよう、無理なときは気兼ねなく無理といえる雰囲気、関係づくりに努めている。長続きさせるためにも大切なことであると考えている。

■ その他

アシスト地域協議会を年2回開催している。(学校、地域、コーディネーター、公民館が参加)

4 コーディネーターとしてのやりがい

子どもたちがかわいい。そして、自分自身がとても楽しい。コーディネーターをしていることで、人間関係がとても広がり、地域のことをたくさん知ることができた。

5 活動上の課題

■ 中学校での活動

中学生や先生が忙しいのは十分わかっているが、もっと中学生に年数回の地域の行事に参加してほしいと思う。若い人が参加することで地域が盛り上がるし、ボランティアとの関係も広がり、深まりができるかもしれない。

■ 若い世代の参加

ボランティアに若手が参加しやすいような仕組み作りが必要だと考えている。現在、國學院短期大学生が何人か参加している。若い人がいると、活動に活気が出る。

6 その他

- ・中学生は小学生に比べて何でも自分たちでできてしまうので、初めは中学校へボランティアに入りこくかった。しかし、活動を重ねるにつれ、学校側からの要望やコーディネーター側からの提案で、活動がどんどん広がっている。
- ・私生活(仕事)との両立は、なかなか大変である。家族の理解と協力が必要不可欠である。
- ・コーディネーターはこまめに学校に顔を出しているのが大丈夫だが、ボランティアは自分が担当するクラスの先生の顔と名前が分からない。年度初めに、アシストネットのメンバーが先生の顔と名前を覚えられるように、何か工夫をしたい。